伝え合う力を高める学習指導の追求

端　名　秀　雄
国語科　斎　藤　景　子
四十住　基　子

1．テーマ設定にあたって

(1) 新学習指導要領との関連

4月から完全実施された新学習指導要領における中学校国語科の目標は次の通りである。

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし，国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」

「伝え合う力を高める」ことは今回の改訂で新たに加えられた文言である。「伝え合う力」とは，「適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に，人と人との関係の中で，互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合う力」のことである。

日々変化するこれからの社会を生きていくためには，言葉によって効果的に伝え合い，互いを認め合い，豊かな人間関係を保ちながら，協力しあって社会生活を向上させていくことが必要である。

また，言葉の大切さを理解しつつ，言葉によって伝え合う力を高めることは，国語科の重要な指導内容となるものである。

本校の国語科では，昨年度まで「情報を生きる力に」というテーマのもとで，情報の収集から発信・受信にいたるまでの力をトータルに養うことを目標としてきた。さまざまな情報を収集し，整理しまとめるという点まではおおむね達成できたと思われるが，他人に発信したり，他人からの情報を受信するという点に関しては今一つの感があった。

新しいテーマの下では，伝え合うための基盤となる「書くこと」「読むこと」の能力を養うことを踏まえつつ，主として「話すこと・聞くこと」の能力の育成に力を注ぎたい。

(2) 「伝え合う力」について

学習指導要領及び解説では，「話すこと・聞くこと」の目標は次のようになっている。

〔第1学年〕

○　自分の考えを大切にし，目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに，話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

（相手，目的，場面や状況などに応じて，話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，話題の選び方，語句の使い方や文の整え方，話の展開の仕方などを「的確に」判断して，話したり聞いたりする）

〔第2学年及び第3学年〕

○　自分のものの見方や考え方を深め，目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を豊かにしようとする態度を育てる。

（認識の対象範囲の広がりや思考の深まりを期待）

また，内容について，そのポイントとなる表現を取りあげると，次のような事項が挙げられている。

〔第１学年〕

ア　自分の考えや気持ち・話し手の意図

イ　ふさわしい話題

ウ　全体と部分・事実と意見

エ　的確に話す・注意して聞く

〔第２学年及び第３学年〕

ア　広い範囲の話題

イ　論理的な構成や展開（中心の部分と付加的な部分・事実と意見）

ウ　説得力のある表現（適切な語句・文の効果的な使い方）

エ　相手の立場を尊重

このように見てくると，いわゆる「話し方」や「聞き方」など，音声言語表現の基礎的な事項は１年生の段階で集中的に取り扱い，「論理的」「説得力」といった，「書くこと」や「読むこと」にも関わってくる事項は，発達段階に応じて２・３年生で取り扱っていくという流れが見えてくる。

「伝え合う力」の中心となる「話すこと・聞くこと」も，単なるコミュニケーション能力だけではなく，認識の対象範囲の広がりや思考の深まりを求められていることになる。

上のア～エのような個々の内容の指導に力を入れながらも，このような受け止め方を前提として，前述のように「書くこと」「読むこと」等とのトータルな力としての「伝え合う力」の育成に努めたい。

(3) 評価との関連

本校の評価に関する研究は，主として授業中の評価をどのようにするかというところに主眼がおかれている。授業という限られた時間の中では，行動の観察という評価方法を用いる場面が多くなるが，教師一人の判断にゆだねられることになりがちである。１クラス40人という本校の現状の中で，時間内に全員を観察で評価するということは不可能であり，１時間に数人が限度である。しかし，評価を数時間にわたって行う場合，全く同じ条件の下で評価できるかどうかという点など，課題もある。

評価に客観性をもたせるために，教師側の評価に加え，生徒の自己評価や生徒どうしの相互評価等の効果的な活用方法も模索中であるが，国語科としては，「伝え合う力」との関連の中で，相互評価を充実させたいと考えている。互いに評価しあうことは，互いに高めあっていくということにもつながると考える。

評価の結果は，教師が指導のあり方を見直す手がかりにすることはもちろんのこと，生徒が自分自身を知ることができ，次の活動に活かされるものでなくてはならない。

生徒どうしの相互評価は，自己評価とともに，授業の中でしかできない評価である。また，短時間で複数の評価を得られるという特徴がある。限られた授業時間内で，多角的な評価を得ることができるとともに，時間内でその評価結果を踏まえて次の活動に移ることが可能である。

しかし，その信頼性という点については個人差が大きく，評価する側としての力を養っていくことも必要である。また，評価規準について教師と生徒が共通理解を図っていくことも今後の課題である。

※参考資料　◎中学校学習指導要領（文部科学省）
◎中学校学習指導要領解説－国語編－（文部科学省）

１年実践

相互評価を活用した説明的文章の要約

端名　秀雄

「クジラたちの音の世界」中島将行（光村図書　１年）

作文の添削には時間を要し，返却に時間がかかる。その場でタイムリーなコメントをすることが理想的ではあるが，本校のように１クラス40名の学級であると，授業時間中に全員を対象にすることは物理的にも不可能である。

そこで，説明的文章の要約の学習活動で，即効性があり，なおかつ同時に複数の評価を得られる方法を工夫してみた。

この文章はクジラたちが海中で生活するときに用いている音について，その特徴を述べている。12段落構成で，約1400字の文章である。教科書の章末には，次のような課題がある。

「この文章の内容を読んでいない人に伝えるとしたら，どんなことをどんなふうに取りあげればいいだろう。300字程度と，150字程度で，それぞれ３段落構成の文章にまとめてみよう。」

この学習では，それをアレンジして，150字程度，４段落構成で要約するという課題を設定した。４段落構成にしたのは，問題提起が２箇所有り，問題提起とその答えの繰り返しという構成で要約した方がまとめやすいと考えたからである。

まず，生徒達に要約させるために，次の２つをポイントとして提示した。

①　２つの問題提起を取りあげること。

②　その答えを簡潔に書くこと。

また，形式の条件として，

①　４段落構成にすること。

②　150字程度の文章とすること。

の２つを提示した。

要約には，資料Ａのようなワークシートを使用した。要約の後，座席の前後左右で交換させて読み合わせ，気付いたことをコメント欄に書かせた。そのコメントを参考に，下段にもう一度書き直させるというのが当初の予定であった。しかし，最初の回覧の後，実際には次のようなコメントが多くなった。

・自分よりもきれいに書いてとてもいい。
・字数もちょうどいいし，内容もいいのでは。
・もっと短めにまとめよう。
・すごくはっきりしていていいと思う。
・文がうまくつながっていて読みやすい。

具体的な内容についてのコメントがほとんど出てこなかった。参考にしようがないという生徒達の声が多かったのももっともである。

そこで，改めて各自が要約した際のポイントがコメントをする際のポイントでもあることを確認し，列を

変えて読み合わせをさせた。

その結果，２回目のコメントには次のようなものが見られるようになった。

・２段落の答えをくわしくして，４段落をもっとけずればいい。
・「いろいろな音を」ではなく，「二つの音」にした方がわかりやすいと思う。
・問題２が無いような気がする。
・「クリック」「ホイッスル」という言葉を入れた方がいい。
・「クリック」の説明をもっとした方がいいと思う。

他人の文章を評価することは，自分の文章を省みることにもつながる。つまり，生徒どうしの活動の評価は，自己評価にもつながるということである。

また，生徒どうしのコメントは，対等の立場の相手に対して書くということで，書く方も書きやすく，書かれる側も受け入れやすいように思われる。

そのことは，ワークシートの最後の項目「班員のコメントの何を参考にしたか，どう変えたかなど」に書かれた生徒の声からも判断できる。何人かの声を紹介する。

・１段落についてアドバイスされたのが多かったから，音についてとその用途をくわしく書いてみました。段落の使い方にも注意して書いてみました。
・コメントをすべて使わせてもらったら，前よりうまくいったかも。特に，「クリック」「ホイッスル」を入れることや，つなぎ言葉を入れることに注意した。
・６行目の部分に「なぜ」を入れたところ。最後から２行目の「ので」を「から」にしたら，とてもよくなったと思った。最後を「～だ。」にしたら，とても力強い意見になったと思った。
・６人のコメントで，自分のだめなところがいろいろと分かりました。「問題提起があっさりしている」というのがあったので，ちょっと長くしてみました。「とってもいい。」みたいなコメントは，とてもうれしかったです。みんなのコメントを参考にしたら，マス目もぴったりになったのでよかったです。要約するってむずかしいなあと思いました。

今後の課題

この学習で大切な点は，まず要約する際のポイントが十分把握できているかどうかという点である。これは，要約する本人にとっても，また，評価する側にとっても必要である。

次にコメントのしかたであるが，最初にコメントを書かせたときには，書き方についての指示を特に出さなかったため，表現のしかたに関するもの，文字の間違いについてのもの，内容についてのものなど，さまざまなものが登場した。

そこで，２回目以降は，要約のしかたについてコメントする，というように指示した。ちょっとした助言であるが，先の例のようにコメントの内容が大きく変化した。評価の観点を明確にしておくことの重要性が明らかになった。

今後も観点をはっきりさせながら，他人のものをしっかり見たり聞いたりする習慣を付けさせるという意味でも，相互評価を効果的に取り入れた活動を行っていきたい。

「クジラたちの音の世界」　二組　二十九番（　　）

要約文

								を	×
か	わ	う	×	の	ュ	ク	×	得	クジラ
ら	た	暗	巧	に	ニ	と	周	た	ジ
だ。	る	や	み	、	ケ	い	り	り	ラ
	に	み	に	ホ	ー	う	の	伝	達
	は、	で	音	イ	シ	非	様	え	は、
			を	ッ	ョ	常	子	合	
	音	正	使	ス	ン	に	を	っ	どの
	が	確	う	ル	や	短	知	た	のよ
	一	に	理	″	自	い	る	り	ょう
	番	速	由	と	分	音	た	し	に
	う	く	は	い	の	を	め	て	して
	っ	伝	。	う	存	使	に	い	情
	て	わ	×	音	在	い	は	る	報
	つ	り	海	を	を	、	ク	の	
	け	響	と	使	示	コ	リ	か。	
	だ	き	い	う。	す	ミ	ッ		

班員からのコメント

2つ目の問題提起のところの理由は。のばす音になるようなたくさんいるのでなどを少しすくなめにした方がいいかもしれないかな？

学があまていから、㋺の問題提起を文字うつしたらいいと思う

□を1コスにしないで分けても、マスはたりるかな？

㋺上手く省略したりしてあると思います。

㋩短く上手くまとめてあってこれも思いいと思います。

㋭2段落をなくできてとってもいいよ。㋺教科書にだけでいいのこととまで書いてあるのでそれを書いたらもっとよいです。

㋺問題提起のしかた　㋩表現のしかた

㋩答えの書き方

㋭段落のとり方

要約文（訂正版）

									×
た	で	を	よ	イ	ー	う	周	を	クジ
る	、	使	っ	ッ	シ	非	り	得	ジ
の	正	う	て	ス	ョ	常	の	た	ラ
は	確	の	異	ル	ン	に	様	り	達
音	に	は	な	″	し	短	子	伝	は
が	速	な	る	と	自	い	を	え	、
一	く	ぜ	音	い	分	音	知	合	
番	伝	か。	を	う	の	を	る	っ	どの
適	わ	×	使	低	存	使	に	た	のよ
し	っ	海	う	く	在	い	は	り	ょう
て	て	と	。	連	を	、	ク	す	に
い	よ	い	×	続	示	コ	リ	る	して
た	く	う	巧	し	す	ミ	ッ	の	情
か	響	暗	み	、	の	ュ	ク	か	報
ら	き	や	に	群	に	ニ	と	。	
だ。	わ	み	音	れ	に	ケ	い	×	

自分自身のコメント

（班員のコメントの何を参考にしたか、どう変えたかなど）

6人の人のコメントで、自分のダメな所がいろいろ分かりました。㋺が短くあっさりしている。というのがあったので、ちょっと長く（マスが危かったから）してみました。「とってもいい」みたいなコメントは、とてもうれしかったです。みんなのコメントを参考にしたら、マス目もピッタリになったので、よかったです。要約する、って、むずかしいなあと思いました。

資料A

1年　　国語科　学習指導案

指導者　端名　秀雄

1．単元名　「自然の不思議をさぐる」（光村図書　1年）

2．目標

・二つの文章を読み，書かれている内容をとらえることができる。

・二つの文章を読んで知ったことを，文章に書いて知らせることができる。

3．評価の観点及び規準

①　国語への関心・意欲・態度

・自然の不思議や海の生物たちについて興味・関心を持って読み，自分の感想を進んで伝えようとしている。

②　書く能力

・自分の考えや伝えたい事柄を，相手に理解してもらえるように工夫して，わかりやすく文章にまとめている。

・友達の書いた文章を読む中で，よいところ，工夫しているところを見つけ，自分の表現の参考にしている。

④　読む能力

・文章の特徴や展開をとらえるとともに，文脈に即して筆者の考えや文章の要旨をとらえている。

⑤　言語についての知識・理解・技能

・文章の特徴や展開をとらえるとともに，文脈に即して筆者の考えや文章の要旨をとらえている。

・自分の考えや伝えたい事柄を，相手に理解してもらえるように工夫して，わかりやすく文章にまとめている。

4．指導にあたって（教材観・生徒観・指導観・評価観）

中学校に入って最初の科学的な内容の文章である。海の中の生物を題材として，興味・関心を持ちやすいように工夫がされている。エピソード中心の「海の中の声」に対して，「クジラたちの音の世界」は科学的な文章構成で書かれている。前者の内容を大まかにとらえる活動から，後者の要旨をまとめる活動へとスムーズに移行することが可能である。

生徒達は小学校でも要旨をまとめる活動は経験済みであるが，科学的な文章の構成のポイントを把握できているかどうかを確認したい。また，「序論」「本論」「結論」や「問題提起」といった文章の構成を示す用語についての理解度も把握しておきたい。

初めての説明的な文章なので，意欲を損なわないように工夫をしたい。文章の型にとらわれすぎることなく，内容に興味・関心を持たせながら学習を進めさせたい。

この単元においては，活動の観察による評価を重視するが，その際には記録簿を活用したい。発表の場においては，生徒どうしの相互評価を実施し，他者からのコメントを文章推敲の際の参考にさせたい。

5．指導計画（総時数　六時限）　　評価計画

第１次　文章の内容をとらえる	……（三時限）	①
第２次　文章を字数を決めて要約する	……（二時限　本時はその２時）	①②④⑤
第３次　文章を推敲する	……（一時限）	①⑤

6．本時の学習（第二次中の２時）

(1) 題材名　文章の内容をとらえよう「クジラたちの音の世界」

(2) ねらい

・対象・字数・構成を意識して，書かれている内容を要約することができる。

(3) 評価の観点及び規準

① 関心・意欲・態度

・だれに向かって伝えるかを意識して，内容を要約しようとしている。

④ 読む能力

・書かれている内容を，本文を読んでいない人を対象に，150字程度，４段落でまとめている。

⑤ 言語についての知識・理解・技能

・クジラの生態に関する文章中の語句に関心を持ち，わからない語句については，辞典などで調べている。

(4) 本時の展開　　☆生徒による評価　　★教師による評価

学習活動	配慮事項及び評価	時間
1　本時のねらいを確認する 本文を４段落，150字程度でわかりやすくまとめよう。	・筆者のものの見方，考え方を確認する。 ・条件を伝える。 ○　４段落構成にすること。 ○　150字程度の文章とすること。 ○　２つの問題提起を取りあげること。 ○　その答えを簡潔に書くこと。	3
2　本文の要約をする。	★評価①　〔行動観察〕 B：意欲的に書こうとしている。	20
3　各４人のグループに分かれて要約文を読みあう。 評価表を記入する。 ☆評価④〔相互評価〕〔自己評価〕	・相互評価表を記入させながら進める。 ★評価① B：評価表をきちんと記入しようとしている。〔行動観察〕	15
4　評価表をもとに，要約文の推敲をする。	・まとめ直しをさせる。 ・評価表の助言を参考にするようにさせる。 ★評価①④　〔行動観察〕 A：積極的に活動している。 ・作文を回収し，点検する。　〔作文の評価〕 A：筋道を立ててより説得力のある書き方を工夫している。 B：筋道を立てて適切に書いてある。 C：極端に量が少なく，質も劣っている。 ・作文へのコメントで助言する。	12

1年単元二　自然の不思議をさぐる　　文章の内容をとらえよう・初めて知ったことを伝えよう

目標及び学習内容	○二つの文章を読み，書かれている内容をとらえる。 ○二つの文章を読んで知ったことを，文章に書いて知らせる。

観点	国語への関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	○自然の不思議や海の生物たちについて興味・関心を持って読み，自分の感想を進んで伝えようとしている。		○自分の考えや伝えたい事柄を，相手に理解してもらえるように工夫して，わかりやすく文章にまとめている。 ○友達の書いた文章を読む中で，よいところ，工夫しているところを見つけ，自分の表現の参考にしている。	○文章の特徴や展開をとらえるとともに，文脈に即して筆者の考えや文章の要旨をとらえている。	○文章の特徴や展開をとらえるとともに，文脈に即して筆者の考えや文章の要旨をとらえている。 ○自分の考えや伝えたい事柄を，相手に理解してもらえるように工夫して，わかりやすく文章にまとめている。

	単元名	主な学習活動または学習項目	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1 6時間	○海の中の声/クジラたちの音の世界	①「海の中の声」を三つの大きなまとまりに分けて，内容をとらえる。 ②三つのまとまりから，音や音に関する言葉を書き出し，そこからわかることを話し合う。 ③「クジラたちの音の世界」を読み，文章中にある問いと答えに着目して，筆者のものの見方や考え方をとらえる。 ④対象・字数・構成を意識して，書かれている内容を要約する。	○自然の不思議や海の生物たちについて，興味・関心を持って読み進めようとしている。 ○進んで話し合いに参加し，自分の意見を相手に伝えたり，友達の意見を参考にしたりしようとしている。 ○だれに向かって伝えるかを意識して，内容を要約しようとしている。			○三つの大きなまとまりごとに，内容を表した小見出しを付けている。 ○イルカの発する音が，コミュニケーションをとるためのもので，人間の声に相当することに気づき，それを念頭に置いて話し合っている。 ○文章中の問いと答えを書き出し，要旨をとらえている。 ○書かれている内容を，本文を読んでいない人を対象に，百五十字程度，四段落でまとめている。	○わからない語句や漢字について，国語辞典を使って意味や用法をノートに整理している。 ○三つ目のまとまりから音や，音に関する言葉を抜き出している。 ○二つの文章の，言葉の使い方や書き表し方の違いを比べている。 ○クジラの生態に関する文章中の語句に関心を持ち，わからない語句については，辞典などで調べている。

2 4時間	○初めて知ったことを伝えよう	①二つの文章を読み直し，取り上げる材料を集め，整理する。 ②読み手を意識して，わかりやすい文章にまとめる。	○読み手の立場に立って，相手にわかりやすく伝わるように，文章をまとめようとしている。		○伝える相手を意識して材料を集め，全体の要約や自分の感想も含んだ紹介文を書いている。		○わかりやすい文章にするために，段落の関係や接続詞の使い方に注意している。
評価の方法と基準	評価B		○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①活動の観察 ○初めて知ったことを伝えよう ①作文の質や量を評価		○初めて知ったことを伝えよう ①作文で評価 相手や目的に応じ，筋道を立てて適切に書いてある。	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートで評価 目的に応じて様々な文章を的確に読みとれている。 ②期末テストで評価	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートで評価 適切な言葉の使い方ができている。 ○初めて知ったことを伝えよう ①作文で評価 適切な言葉の使い方ができている。
	評価A		○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①活動の観察 積極的な態度である ○初めて知ったことを伝えよう ①作文の質や量を評価 質・量ともに抜きん出て充実している。		○初めて知ったことを伝えよう ①作文で評価 相手や自的に応じ，筋道を立ててより説得力のある書き方を工夫してある。	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートで評価 目的に応じて様々な文章を的確に読み取り，自分の考えを深めることができている。 ②期末テストで評価（8割） 6割未満はC	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートで評価 ○初めて知ったことを伝えよう ①作文で評価
	評価Cに対する生徒への配慮事項		○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①活動へのアドバイス ○初めて知ったことを伝えよう ①作文へのコメント		○初めて知ったことを伝えよう ①作文へのコメント	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートへのコメント ②期末テストの再提出	○海の中の声/クジラたちの音の世界 ①ノートやワークシートへのコメント ○初めて知ったことを伝えよう ①作文へのコメント

2年実践

自分の意見を言える，そして，聞き合える力と関係づくりを目指して

四十住基子

1．はじめに

伝える，伝えたい内容を持っている，伝えたい相手がいる，そして，伝えるすべを十分に身に付けている，このような学習者の姿をイメージして一年間の学習指導計画を立てた。また，昨年の学習指導の中でも，「伝え合い」の発表を聞き合う学習を行ってきたので，それも併せて報告したい。

2．昨年度の実践から

第一学年の授業では，活発に意見の発表ができる，他の資料を活用して報告ができる，互いの特徴を生かしてグループ学習ができる，そういう教室を目指して授業を行った。厳密に言えば，昨年度の国語科の研究テーマ「情報活用能力の育成」と今年度のテーマ「伝え合う力を高める」とは，異なるわけだが，相互に聞き合い，評価し合う授業も，意識的に取り入れてきたつもりである。したがって，昨年度の実践も十分に参考になると考え考えて，ここに報告する。

(1) スピーチ「愛読書紹介」（6月）

① ねらい
- みんなに伝えることを意識して，スピーチする力をつける。
- 友達のスピーチを評価し，聞く力をつける。
- 愛読書を紹介し合うことで，読書生活を豊かにするきっかけとする。

② 授業の流れ

第一次　オリエンテーション＆教師のスピーチを聞く（1時間）

第二次　愛読書紹介文を書く（2時間）

「声のノート」（あかつき図書）を参考にして

第三次　スピーチをし，相互に評価をする（4時間）

（資料1，2）

（資料1）評価感想表個人用

「愛読書紹介」　あなたへの連絡票

さんへ

	A	B	C
① わかりやすさ（大きさ・速さ・はっきり）	27	33	28
② 内容（まとまり・自分の意見など）	12	6	10
③ 読みたくなったか（全体的・工夫など）			1

一言コメント

・アイコンをたくさんとっていて，聞いて！という気持ちが伝わってくる
・登場人物の説明が詳しかった・謎のシーンが気になる・今読んでみて気付いてなかったことがあった・読んでみたい。

「愛読書紹介」　あなたへの連絡票

さんへ

	A	B	C
① わかりやすさ（大きさ・速さ・はっきり）	12	16	15
② 内容（まとまり・自分の意見など）	25	23	22
③ 読みたくなったか（全体的・工夫など）	2		2

一言コメント

・表現の仕方がいい「手品のように」とか，「自分が読んでみて」というのがわかりやすい　・でもずっと下を向かずに前を向いて大きく言ったらいい　・おもしろく，読みたくさせるテクニックがあった。

（資料２）評価感想表

1の3「愛読書を紹介しよう」

	No.	氏名	書名	聞きやすさ 大きさ・速	内容 まとまり	読みたくなったか	一言コメント
☆	1		ぼくらの大脱走	A	A	A	とてもおもしろい内容で売っていたら読んでみたいと思った
	2		ハリーポッターと秘密の部屋	A	B	B	大きい声で聞きやすかった。
	3		オーバ	A	A	B	おもしろい本だなあと思った。
	4		火よう日のごちそうはひとかえる	A	A	A	売っていたら読んでみたい！
	5		ハリー・ポッター（ひみつの部屋	A	A	B	とても聞きやすかった。
	6		チョコレート戦争	A	B	B	聞きやすくて、おもしろそうな本だなあと思った。
	7		ヒ゛タミンF	A	A	B	ききやすくて、おもしろそう
6/25	8		パスワードは「謎」ブック	B	A	B	声が大きくてききやすかった
	9		影との戦い ゲド戦記	A	A	B	話がとても聞きやすかった。
	10		オリエント急行殺人事件				
	11		三銃士	B	B	B	声も大きくてききやすかった
	12		ぼくを探しに	A	A	A	絵もたくさん書いて紹介したのでおもしろかった。
	13		ビッグオーとの出会い	A	A	A	とてもおもしろそうな本だなあと思った
☆	14		チズはじこへ消えた。	A	A	A	内容がおもしろくよかった。くても読んでみたい。
	15		世界八時ツアーズ 中村 俊輔	B	A	B	おもしろそうなことはかつかまとめられていた
	16		HELP！もしろう紙たちのじゅうれん	B	B	B	すごくいいことばとかでまとめられていてよかった
	17		はてしない物語	A	A	B	すごいが厚い本だからすごくおもしろそう
	18		おいのり	C	C	C	だんだん声が小さくなってきて聞きにくかった
	19		怪盗 ＋反さ ちから ＋ ＋	C	B	A	とちゅうでとぎれときれになったので聞きにくくなったなと
	20		ガリバー旅行記	B	B	B	内容がよかった 読んでみた
	21		ベニスの商人	B	B	C	内容がよとまっていた。
	22		虹北恭助の冒険☆	A	B	B	内容がまとまっていてよかった。
	23		おくれば旨導犬モア	A	A	B	声が大きくて内容もよくまとめられていた。
	24		にんじん	A	B	B	とても聞きやすかった。
	25		青い天使	A	A	B	内容がよくまとまっていて聞き
	26		ハリー・ポッターと賢者の石	A	A	B	おもしろそうな本だなあと思った。
6/25	27		そして5人がいなくなる	A	A	C	とてもききやすかった
	28		ハリーポッターと賢者の石♡	A	B	B	ハリポ・ターシリーズは読んでみたいと思った
	29		キキのがんつめ★	B	B	B	おもしろそうな本なので読んでみたい。でも値段が高い
	30		チーズはどこへ消えた？	A	B	A	売っていたら読んでみたい！
	31		ぴりっかすの神様	A	A	A	内容も声の大きさも速さもとてもよかった。
	32		羊たちの沈黙	A	A	A	これおもしろそうな本だけど一度は読んでみた
	33		3年B組金八先生	A	A	B	すごく内容がよくまとめられていてよかった。
	34		星の王子様	B	B	C	作者の話がとてもよくまとめられていた
	35		砂の妖精	B	C	C	あらすじはよくまとめられていた
	36		ながいながいペンギンの話	A	A	A	とても大きな声でとても聞きやすかった
	37		ハッピーバースデー	B	A	B	内容がとてもおもしろそう
	38		ハリー・ポッターと賢者の石	B	A	B	内容がよくて、読んでみたい
	39		ハリー・ポッターと賢者の石	B	A	B	作者の話も紹介してよかった
	40		君の絵じゃだめだろね	A	A	B	詩を朗読したりしてよかった

A、B、Cの三段階で評価する　　3組 10番 氏名（

感想　君や　君は紙をみないで紹介していたけど、
ぼくは紙をすこく読んで言っていた。
だからこんどもしするときあまり紙を見ないでいいたい。

(2) プロジェクトX「ナレーションに挑戦」(10月)

① ねらい　・教科書教材「魚を育てる森」とNHK番組ビデオ「プロジェクトX―えりも岬に春を呼べ―」を比較し，それぞれの特徴を理解する。

・「田口トモロヲさん」になってナレーションに挑戦し，事実と感動を伝える。

② 学習の流れ

第一次　「魚を育てる森」の内容理解（３時間）

第二次　ナレーションに挑戦　（５時間）

・番組ビデオ視聴　学年学活の形で一斉に視聴する（１時間）

・教科書の文章と番組ビデオを比較（資料３，４）　(0.5時間)

・文章を分担して練習　（資料５）　(1.5時間)

・発表会と感想　（２時間）

（中島みゆき「地上の星」「ヘッドライト・テールライト」のBGMに乗せて）

（資料３）教科書と番組ビデオの比較

国語　プロジェクトＸ「ナレーションに挑戦！」

1年1組 23番氏名（　　）　簡潔

1．番組ビデオ「えりも岬に春を呼べ」を、教科書の文章「魚を育てる森」と比べると、どんな違いがあるでしょうか。（内容、伝え方の工夫、受ける印象の違いなど）

・文で想像するより、映像で見た方が、大変なようすがすごく伝わってきた。→どういうようすだったかがよく分かる。　よりはっきりと。

・プロジェクトXでは、人物の気持ちを強く伝えている。

・教科書では○○をすると〜なるか、と書いているけど、プロジェクトXは人が考えたアイディアを失敗でもそのまま映像にして苦労が伝わってくる。　するどいです!!

・教科書では細かいところまで説明しているけど、プロジェクトXではささっと、すぐわかるように伝えていた。（人の気持ちの友を優先している）　・教科書のえりもみさきは例としてあっかっているけど、プロジェクトXでは中心。

・教科書では土のこと　プロジェクトXでは人について書いている。

・プロジェクトXでは人の努力を強く伝えているけど、教科書では、その努力をほんの一言で書いている。　・番組は人、特に人の努力、教科書は自然について書いている。

つまり、教科書は結果を完結に書いてあるから、みじかい時間で結果がだいたいわかるようになっている。

2．田口トモロヲさんのナレーションの上手なところや、真似をしたい特徴はどんなことでしょう？

語尾を強くいうことで、とても印象に残るようにしている。
強く、はっきりと、心をこめて言っている。「〜だった」と言う。一言がみじかい。
感動するところはゆっくり言って、言いおえた後、間を大きくとってある。

はっきりしながらもやさしく。　だから心をこめて言っている。　わかりやすくする。大げさに。

強弱はつけるけど音ていはかわらない。かたりかけるよう。　伝えたいのは

予告　次回（11月14日）はいよいよナレーションをやってみますよ。練習をしてみてくださいね。

1番後ろ。

検

国語　プロジェクトＸ「ナレーションに挑戦！」

1年1組 36番氏名（　　）

1　番組ビデオ「えりも岬に春を呼べ」を、教科書の文章「魚を育てる森」と比べると、どんな違いがあるでしょうか。（内容、伝え方の工夫、受ける印象の違いなど）

伝え方の工夫の違い
○町の人のこと、人々の心の中などが深く伝えている。
○えりもの被害など、写真を使って伝えていた。
○体験者の気持ちなどを同時に伝えていた。
○原因や、理由もくわしく伝えていた。
○森進一の(有名な)歌もところどころに入れ、分かりやすくしていた。
○森と海のつながりを、人々の口から伝えている。

内容の違い　努力
○町のうごき　人々の心のうごきを　協力など　えがいていた。
○えりも岬をよみがえらせるまでの苦労、工夫などがえがいてあった。
○えりも岬回復までの過程がかいてあった。
○経験の話を入れる。
○飯田さん(中心となった人)を中心に話がすすむ。
○これからのことも　。
○親から息子へ…　。

分かりやすい　たくさんの失敗　すごいぞ

教科書　えりもの春　世界一の　40年の戦い

2．田口トモロヲさんのナレーションの上手なところや、真似をしたい特徴はどんなことでしょう？　この分析

○大切なところを大きく強くはっきりと言っていた。　○擬人法　○倒置法　を使う。
○強弱をつけて話していた。
○間をほどよくあけて言っている。
○ナレーションとして、説明するところと、人々、私たちに呼びかけるようなところがあった。
○ところどころに人々のことばを入れて、その言葉は、その人になりきって言う。

予告　次回（11月14日）はいよいよナレーションをやってみますよ。練習をしてみてくださいね。

検

（資料４）『プロジェクトＸ挑戦者たち７―未来への総力戦―』　（日本放送出版協会）より

③

襟裳から出ていく

飯田常雄の長男、英雄は中学生になっていた。英雄は心に決めていた。

「コンブ漁も森づくりも、俺は継がない」

七、八歳のころからコンブ漁の手伝いをさせられていた英雄には、コンブといえば「つらい」イメージしかなかった。また、風の強い日、空が赤一色に塗りつぶされ、いつもは見える日高山脈がまったく見えなかったとき感じた恐ろしさの感覚は、鮮烈なのである。

英雄はこのころ、襟裳から出て行くことしか考えていなかった。都会のサラリーマンに憧れていた。その夢を果たすべく、英雄は昭和四九（一九七四）年三月、襟裳を離れ、苫小牧の私立高校に進学した。大学進学が前提だった。

常雄は何も言わずに行かせた。早い時期に、「重労働のコンブ採りは俺の代で終わり」と思い切ったのである。それ以来、英雄には何も言わない。しかし、その常雄にも、英雄にあとを継いでコンブ漁師になってほしいという希望は、もちろんあった。だから、「この仕事を継いで、襟裳で生きろ」と言えない歯がゆさも感じていた。

ところが三年後の暮れ、常雄が突然、倒れた。最初は寄の日だった。常雄は作業中に倒れ、しばらくして帰ってきた。二度目は出先で倒れ、そのまま入院した。過労と腎臓の病だった。二〇年を超す森づくりにコンブ漁、重労働を続けた常雄の体は、ぼろぼろになっていた。

飯田常雄の長男・英雄は、昭和49年3月に襟裳を離れ、苫小牧の高校に進学し大学進学をめざしていた。

考えた末、常雄と妻の雅子は、息子の英雄に「襟裳に戻ってきてくれないか」と伝えた。

雅子は、こんなことを言って英雄にはすまない、という気持ちは十分あった。しかし、常雄がこうなった以上、ほかに道はないと、雅子は思っていた。

三か月後、英雄は襟裳に戻り、漁師になった。コンブ漁だけではやっていけず、冬は地元の建設会社で働いた。

進学の夢を断たれたやりきれない思いを、雅子にぶつけた。

「何のために、高校出てさ、大学行けないで、いちばん嫌だったコンブ採りと土方やんなきゃならんの、と言ったね。最悪のパターンなんだよね。もう逃げ出したかったよ、ほんとに！」（英雄）

常雄の腎臓の病は決して楽観できるものではなかった。それでも常雄は黙々と森づくりに通った。

蘇る豊饒の海

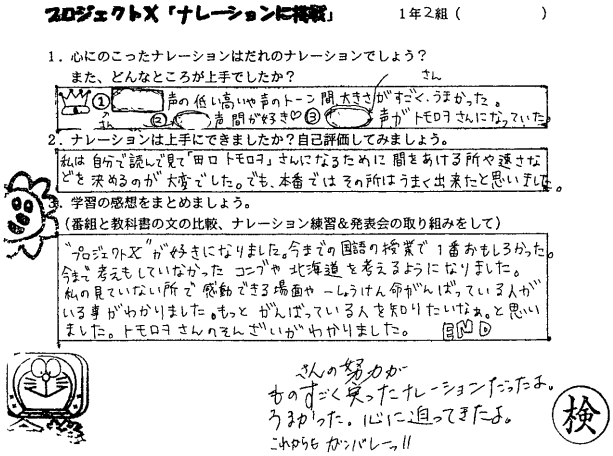
ある日、コンブを採りに船で海に出た英雄は、ふと波間を見て気づいた。海が以前よりも青くなっていたのである。百人浜に目をやると、クロマツの林が陸にへばりつくように続いているのが、わずかに見えた。

林に足を運んだ英雄は驚いた。父・常雄をはじめ、地元の作業員たちが、鍬をくいしばってツルハシを振るっていた。苗木を一本一本、悲しむように植えていた。その姿に胸を突かれた。

それからしばらくのことだった。現場にバリソーシャベルが現れた。英雄が乗っていた。建設会社で仕込んだ技術で、猛然と溝を掘り始めた。みごとな排水溝が張りめぐらされた。荒廃していた森づくりが、気に進み始めた。英雄は父と並んで、マツを植えた。打ちひしがれていた英雄の心に変化が見え始めた。

「ヘッドライト・テールライト」にのせて

（資料５）発表後の評価表＆感想


プロジェクトX「ナレーションに挑戦」　1年2組（　　）

1．心にのこったナレーションはだれのナレーションでしょう？
また、どんなところが上手でしたか？

①（　　）さん　声の低い高いや声のトーン間大きさがすごく、うまかった。
②（　　）さん　声間が好きだ。③（　　）さん　声がトモロヲさんになっていた。

2．ナレーションは上手にできましたか？自己評価してみましょう。

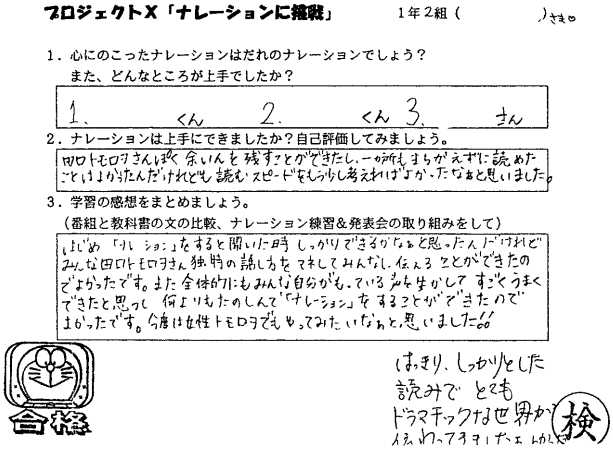
私は自分で読んで見て「田口トモロヲ」さんになるために間をあける所や速さなどを決めるのが大変でした。でも、本番ではその所はうまく出来たと思いました。

3．学習の感想をまとめましょう。
（番組と教科書の文の比較、ナレーション練習＆発表会の取り組みをして）

"プロジェクトX"が好きになりました。今までの国語の授業で１番おもしろかった。今まで考えもしていなかったコンブや北海道を考えるようになりました。私の見ていない所で感動できる場面や一しょうけん命がんばっている人がいる事がわかりました。もっとがんばっている人を知りたいなぁ。と思いました。トモロヲさんのそんざいがわかりました。　自N D

さんの努力がものすごく実ったナレーションだったよ。うまかった。心に迫ってきたよ。これからもがんばレっ!!

検


プロジェクトX「ナレーションに挑戦」　1年2組（　　）さまへ

1．心にのこったナレーションはだれのナレーションでしょう？
また、どんなところが上手でしたか？

1．　　くん　2．　　くん　3．　　さん

2．ナレーションは上手にできましたか？自己評価してみましょう。

田口トモロヲさんは、深いんを残すことができたし、一つの所もまちがえずに読めたことはよかったんだけれども、読むスピードをもっとおそくしたらよかったなぁと思いました。

3．学習の感想をまとめましょう。
（番組と教科書の文の比較、ナレーション練習＆発表会の取り組みをして）

はじめ「ナレーション」をすると聞いた時しっかりできるかなぁと思ったんだけれどみんな田口トモロヲさん独特の話しかたをマネしてみんなに伝えることができたのでよかったです。また全体的にもみんな自分がもっている力を生かしてすごくうまくできたと思って何よりもたのしんで「ナレーション」をすることができたのでよかったです。今度は女性トモロヲでもやってみたいなぁと思いました。

合格

はっきり、しっかりとした読みでとてもドラマチックな世界が伝わってきましたよ

検

(3)　「故事成語を調べよう」（１月）

①　ねらい　・故事成語について，故事や意味，用法を理解する。
・参考資料を使い，新たに故事成語を調べる方法を身に付ける。
・グループで協力し，分かりやすい発表を行う力を養う。

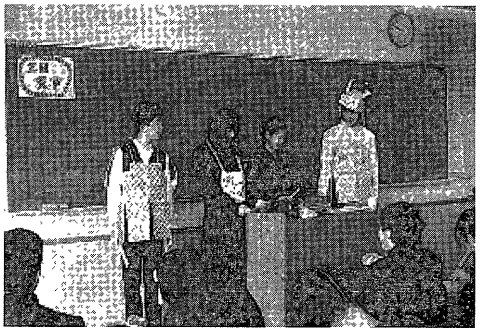
②　学習の流れ

第一次　「故事から生まれたことば」　（３時間）
・故事成語とは何か
・漢文とは何か
・「推敲」「矛盾」の故事はどんなものか

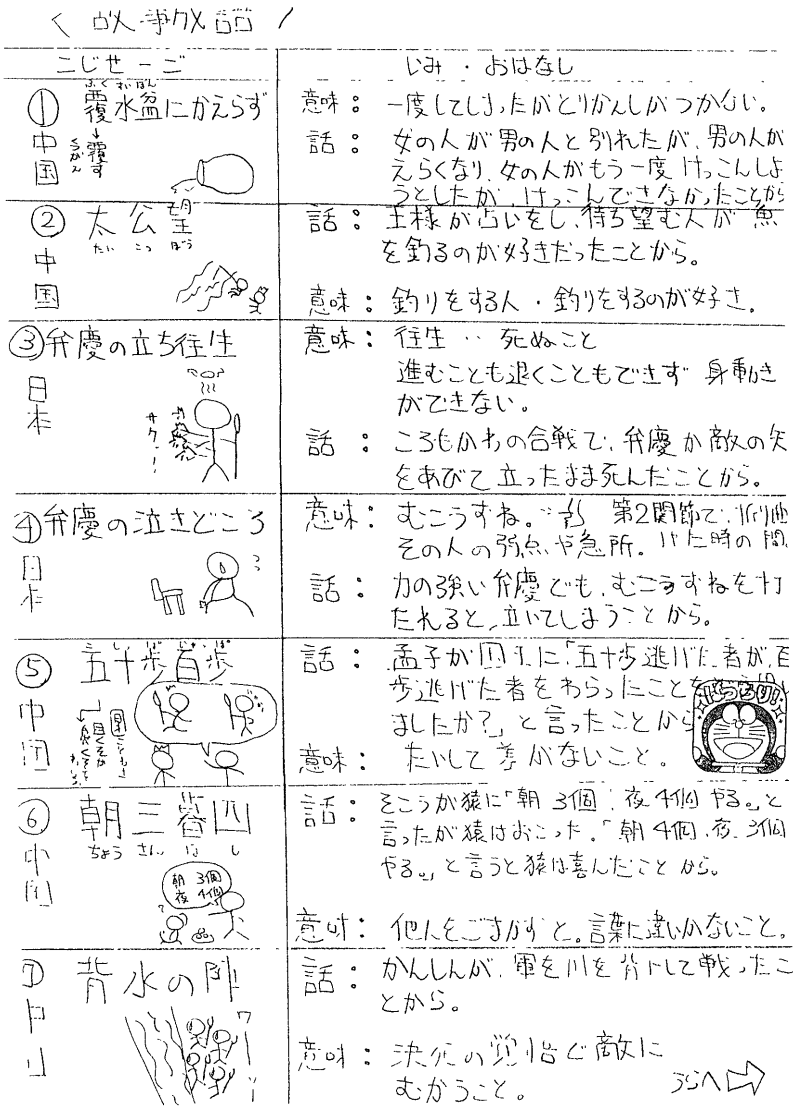
第二次　故事成語の世界を広げよう　（３時間）
・参考資料を使って調べよう。「蛇足」「孟母三遷」「洞が峠を決め込む」について，意味・用例・故事を調べて確認する。
どこの国の故事なのか，なぜその漢字が使われているのかに注意する。

第三次　故事成語を発表しよう　（３時間）
・グループで工夫し，発表する。
紙芝居，劇，ペープサート，プリントなど（資料６）
・聞く方はメモを取りながら聞く。　（資料７）

（資料６）発表会時の様子



（資料７）まとめメモ



故事成語

こじせーご	いみ・おはなし
① 覆水盆にかえらず（ふくすいぼんにかえらず） 中国 覆（くつがえす）	意味：一度してしまったがとりかえしがつかない。 話：女の人が男の人と別れたが、男の人がえらくなり、女の人がもう一度けっこんしようとしたが、けっこんできなかったことから
② 太公望（たいこうぼう） 中国	話：王様が占いをし、待ち望む人が魚を釣るのが好きだったことから。 意味：釣りをする人・釣りをするのが好き。
③ 弁慶の立ち往生 日本	意味：往生…死ぬこと 進むことも退くこともできず身動きができない。 話：ごろもがわの合戦で、弁慶が敵の矢をあびて立ったまま死んだことから。
④ 弁慶の泣きどころ 日本	意味：むこうずね。第2関節で、個人その人の弱点や急所。けた時の間 話：力の強い弁慶でも、むこうずねを打たれると、泣いてしまうことから。
⑤ 五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ） 中国	話：孟子が国王に「五十歩逃げた者が、百歩逃げた者をわらったことをどう思いましたか？」と言ったことから 意味：たいして差がないこと。
⑥ 朝三暮四（ちょうさんぼし） 中国	話：そこうが猿に「朝3個、夜4個やる。」と言ったが猿はおこった。「朝4個、夜3個やる。」と言うと猿は喜んだことから。 意味：他人をごまかすこと。言葉に違いがないこと。
⑦ 背水の陣 中国	話：かんしんが、軍を川を背にして戦ったことから。 意味：決死の覚悟で敵にむかうこと。

⇨ うらへ

(4) 評価について

個人やグループの発表は，必ずメモしながら聞かせた。心に残った上手なスピーチや朗読は評価し合い，どんなところがよかったのか，確認したり，簡単な表彰も行った。

また，定期テストなどにも，各クラスの学習を問う問題を設定し，個々の学習が定着するよう意図した。

3．今年度の実践から

(1) 題目　　「意見文を書く」（全６時間）

(2) ねらい　・基本的な意見文の書き方をしり，意見文を書く参考にする。（読む）

・自分の考えを，正確に相手に伝える意見文を書く。（書く）

・お互いの意見文を読み，アドバイスをする。

(3) 学習の流れ

第１次　投稿記事から意見文の書き方を学ぶ（３時間）

・「W杯に寄せる」投稿記事について

・投稿記事から意見文の書き方を学ぶ

・投稿記事をスクラップし，評価する（資料８）

第２次　身近な問題を探し，意見文を書く（３時間）

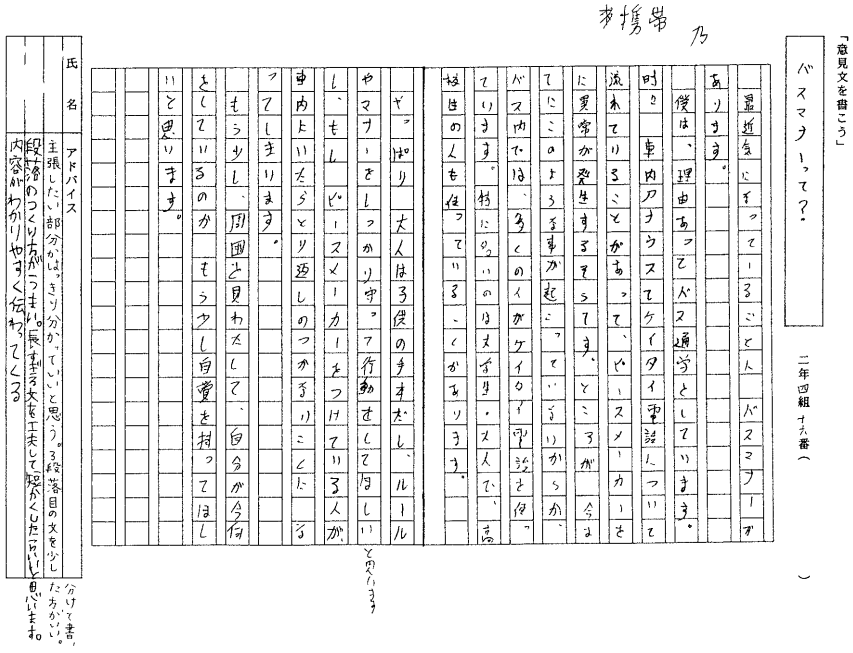
・課題を探し，四百字程度の意見文を書く

・お互いの意見文を読み，評価し合う（資料９）

・清書する

（資料８）投稿記事スクラップ

（資料９）下書き



(4)　反省

意見文に出会うという意味ではある程度の効果はあった。同じ事実を目の前にしても個人によって意見は異なる，根拠となる事実がないと説得力に欠ける，はじめと終わりを呼応させると分かりやすい，ということは十分に理解できたとみる。（意見文のスクラップ分析から）

しかし，実際に「書く」という段階においては，指導の徹底が十分には図れなかったと感じている。すなわち，自分の書きたいように書いている生徒が少々見られたからである。意見文の特徴で理解したことは理解したこととして終わり，自分の意見文には生かしきれていない。単なる体験作文で終わっている者，友達のせっかくのアドバイスも生かされずそのまま清書する者も若干いた。課題を探す部分や，じっくり考える時間がが少なすぎたと考える。

意見を発表する場も，残念ながら時間の関係上設定できなかった。また，行ったのは７月に入ってからなのだが，互いの意見を聞き入れるという態勢も弱いと感じた。ということは，早々に開始して，意見発表の場を設けることが絶対条件だったと考える。昨年度はあれほど評価や意見交換ができていたのに，今年度はまだ十分にうち解けられず，自由に意見交換できないクラスもある。互いの意見を聞いて評価し合い，高め合うのだという意識づくり，そしてさらに自分の意見を磨いこうとする姿勢を養うべきであった。これらは，遅ればせながら後期への課題としたい。

評価については，意見文分析のプリントなどは教師がすぐに評価して返し，学習の成果を生徒自身に納得させる必要があると感じた。集めて次の授業に必ずよい人の例を挙げるようにした。生徒同士の評価は，ポイントを絞って評価させたが，そのような作文の見方は，身に付いたと感じている。ただ，この単元に限らず，もっと頻繁に相互評価を行っておけば，学習の仲間作りがスムーズにいったのではないかと反省している。

今年度から指導要領が改訂され，教科書も評価も変わった。時数も削減されるなか，充実した活動を盛り込もうとすると，どうしても時間不足を感じてしまう。焦点化した授業計画と，生徒自らが学んでいこうとする魅力ある授業作りや評価のあり方を模索していかねばならないと痛感している。

(5) 評価基準表

「書くことの学習１・２」（全８時間）

目　標	「書くことの学習１・課題を見つける」 ・社会や地域、自分の周囲などから見つけた問題を過大としてとらえ、書きまとめる。 「書くことの学習２・わかりやすく伝える」 ・わかりやすい文章を書くための方法を教材文から読み取り、課題を設定して文章を書く。

観点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語事項
評価基準	・社会の事象や身の回りの出来事に関心をもち、自分の課題としてとらえようとしている。 ・自分の考えや思いなどを相手にわかりやすく伝えるための方法を理解しようとしている。		・広い範囲から問題を見つけ、それについて調べたり確かめたりして、考えを深めている。 ・伝えたい事実や事柄を明確にし、文や文章の構成を工夫してわかりやすく書いている。		・伝えたい事実や事柄を明確にし、文や文章の構成を工夫してわかりやすく書いている。

	単元名及び目標	主な学習活動 または学習項目	関心・意欲・態度 （評価方法と基準）	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
1次 2時間	「課題を見つける」 「わかりやすく伝える」	・社会や地域、自分の周囲などから見つけた問題を過大としてとらえ、書きまとめる。 ・わかりやすい文章を書くための方法を教材文から読み取り、課題を設定して書く。	・自分の身の回りやさまざまな社会の出来事を問題としてとらえ、原因や解決の方法について考えようとしている。 ・わかりやすくの書くための方法を理解しようとしている。		・自分の身の回りや社会のさまざまな出来事から、不思議に思ったり疑問に感じたりしたことを集め、整理している。 ・課題について、資料を調べたり人の意見を聞いたりして取り組んでいる。 ・教材文を読み、5W1H、文の組み立て、文章の構成などわかりやすく書くための方法を理解している。		・語句や漢字を正確に使おうと、辞典などで確認している。
2次 3時	・意見文を書く	・課題を設定して、わかりやすい文章を書くための方法で、書く。	・わかりやすくの書くための方法を理解し、進んでそれを活用しようとしている。		・自分の課題を設定し、わかりやすく書いている。		・文の成分の順序や照応などを的確に行い、わかりやすく文を組み立てている。
3次 3時	・意見発表会を開く	・聞き手に伝わるよう発表したり、正確に聞き合う。 ・評価表をつけながら聞く。	・わかりやすさを意識して発表し、正確に聞き取ることを意識して聞き合おうとしている。	・わかりやすさを意識して発表し、相手の伝えたいことを正確に聞き取っている。			
評価方法と基準	（評価Ｂ）		・活動の観察。 ・意見文の点検。 ・発表会の評価。	・発表会の評価。 わかりやすく伝えている。 ・評価表の点検。	・意見文を点検。 身の回りから問題点を積極的に探り、整理している。 文をわかりやすく書いている。		・意見文を点検。
	（評価Ａ）		・活動の観察。 ・意見文の点検。 質が抜きん出て優れている。	・発表会の評価。 わかりやすさを意識し、説得力のある話し方をしている。	・意見文を点検。 より論理的に、説得力のある書き方ができている。		・意見文を点検。
	（評価Ｃに対する生徒への配慮事項）				・材料集め、書き方などをアドバイスする。		

3年実践

シンポジウムをしよう

斎藤　景子

「日本語を巡って話し合おう－シンポジウムを開く－」（光村図書・3年）

1．実践にあたって

改訂された教科書を見て先ず感じたのは，当然のことながら「話す・聞く」活動が多くなったということである。さまざまな形態の話し合いの紹介，実践例が挙がっている中で，3学年では「シンポジウム」が用意されていた。しかも最初の単元で。これは自分への挑戦状だな（誰からの？）と思った私は，メラメラと闘志を燃やし…はしなかったが，初心に帰った気持ちで教科書の教材に向かったのだった。

2．生徒観

前年度まで，教科目標をふまえた特設単元をいくつか経験している生徒たち。少し具体的に言えば，「メディアに学ぶ情報の発信」ということであったのだが，それによって少なくとも――この単元では「クラスメートの前で自分の意見を発表する時間」が用意されているのだ――ということを，こちらが言う前から予測できるようにはなったようである。

今単元でも「シンポジウム」と聞いた途端に少なからぬざわめきが起こり，「発表者は何人？」「全員てことはないよね」といった，嫌がっているのか発表したがっているのか，とにかく興味津々の声があがったのには，「結構話し合う場面というのは，生徒は好きなんだなあ」と改めて確認されたことであった。

これは，ひとつ国語科に留まらず，総合的学習も含めた他の教科やさまざまな場面で，また小学校時代から，「プレゼンテーション」の機会が数多く与えられてきたことの結果であろう。とにかく「つかみ」は上々であった。

3．指導観

すでに述べたように，生徒たちが1年生のときから，「メディアに学ぶ情報発信」というテーマで，過去2年間いくつかの授業を実践してきた。にもかかわらず，「シンポジウム」という形式には「ちゃんとできるかなあ」という気持ちに正直させられた。しかし「できるかな」ではなく，「できるように支援する」のが指導である。そう考えたとき，――何をどのように支援していったらいいのか――というのが課題としてあがってきた。考えられたのは以下のことである。

・「シンポジウム」の仕方を理解させる。
・根拠をもとにした説得力のある意見展開ができるようにする。
・聞いてわかりやすい話し方の工夫ができるようにする。
・他者の意見と自分の考えの異同に気付かせる。

後はあまりパーフェクトなものは追求せず，生徒の興味・関心に沿ってシンポジウムの開催までもっていくことにした。

4．教材観

この単元では「日本語を考える」ことがテーマとなっている。文章を読み，それを参考にレポートを書き，シンポジウムを行うという，まさに三観点を網羅した内容である。

「日本語の乱れ」はたいへん今日的な問題で，教科書の文章も「三年目には時代遅れになってしまうのでは」と心配してしまうほど「今風」であり，生徒には入りやすいテーマと言えるだろう。また，日本語に関する各機関によるアンケート調査の結果なども多く公開されており，手軽に知ることができる。更にこの時期，書店には「日本語」・「国語」を冠した本が平積みになるほど，ある種ブームになっており，この単元をするにはちょうどよかった。

とは言え，新年度が始まってすぐに，調査・まとめ・発表という流れに自分自身は乗っていけるのか，時間配分はうまくいくのかといった不安をはらみつつ授業はスタートしたのだった。

5．学習計画

第１次　「詩が生まれるとき」「日本語は乱れているか」を読み，日本語に対して興味・関心・問題意識を持つ。　２時間

第２次　日本語に関するテーマを設定し，資料をもとにレポートを作成する。　3.5時間

第３次　シンポジウムの計画を立て，準備をする。　1.5時間

第４次　シンポジウムを行う。　３時間

※　資料参照

6．授業から

(1)　各自レポートのテーマ例（第２次より）

第２次では，第１次の教科書中の二つの文章を参考にテーマを選んだため，当然ながら「日本語の多様性」と「日本語の乱れ」についてのものが多く，特に「日本語の乱れ」については，こちらから資料をいくつか提示したこともあって，より多くの生徒が関心を示した。

・若者言葉について　・流行語の変遷　・略語について　・ファミレス語

・カタカナ語の氾濫　・正しい日本語とは　・メールで使う言葉

・テレビが言葉に及ぼす影響

・色を表す言葉いろいろ　・人称代名詞について

(2)　シンポジウムの開催（第３次，第４次より）

①　開催までの流れ

・「シンポジウム」について知る。

教科書等の資料や付属CDによって，「シンポジウム」の形態や，流れを理解する。

・話題を決定する。

各自のレポートのテーマをすべて挙げ，話し合いによって，抽出，絞りこみを行った。

・発言者，司会者を決定する。

まず，先に決まった話題の中から自分の発言しようとする話題を選び，発言メモを作成する。次に，同じ話題を選んだグループ内で発言メモをもとに発言者を決定した。このとき，発言内容を発言者に一任するグループもあれば，グループ内の意見をまとめて発言者に託すグループもあり，なかなか興味深かった。

その後，司会者を決定した。

② 実録「シンポジウム」　於：3年2組

テーマ　「日本語を考えよう」

◎第1ラウンド

《話題》　1．若者言葉をめぐって
　　2．日本語の多様さ
　　3．言葉の変化

《発言》

話題1．Sさんから，若者言葉がこんなに広がったのは，「みんな使っているし，自分も使えば便利だから」と思っている人が多いから。という，アンケート結果を元にした発言があった。

話題2．まずHさんより，ネット上と普段の会話では言葉遣いが変わる人が多いが，これを「いい悪い」と言うより，言葉が広がっているととらえたい。という主旨の発言がなされ，続いてNさんから，日常よく使われるカタカナ言葉にふれ，外来語は，例えばもとは英語であるとか意識されているわけではなく，すっかり日本語として使われている。という発言があった。

話題3．Oさんから，「第十回」を「だいじっかい」と読める人はアナウンサーにも少なくなっているという現実をふまえ，正しくない日本語に変わるのを時代の流れのせいにして見逃すのは良くない。という発言があった。

《質疑・応答》

まずはNさんに対する「(発言の中に出てきた) ティッシュって何語ですか」というNさん苦笑もの（わからなかったのである）の軽い質問から始まったのであるが，Sさんに対する「便利だから使うというが，どんな時にどう便利なんですか」という質問をきっかけに「じゃあ，この場でみなさんに聞いたら？」ということで，俄かに全員参加型イベントに盛り上がっていった。果ては「Oさんはよくないと言ったけど，言葉が変化するのは自然な流れで，若者言葉もそう。だいたい，正しい日本語って何？」という挑発的な意見が出たところで，司会者に許可をうけた発言者のHさんから「私はいい，悪いにはあえてふれなかったが，みなさんは言葉の変化をどうとらえていますか？」という掟破りの質問がなされ，ここで一気に「若者言葉を使うことはいいか，悪いか」というディベートの場に変化してしまったのだった。意見白熱の中，しばらくは「生徒はディベート（らしきもの）が好きなんだなあ」とおもしろく聞いていたが，ここは司会者に「この場はシンポジウムですから，その件に関してはそれくらいで」と言わせたところでちょうど時間となり，第1ラウンドは終了したのだった。

◎第2ラウンド

《話題》　1．若者言葉をめぐって
　　2．日本語の多様さ
　　3．日本語をどう感じているか

《発言》

話題1．Yさんから，アクセントの平板化はコミュニケーション上の誤解を招き，人間関係にも

影響を及ぼしかねないので注意したい。との発言があった。

話題２．Ｗさんから，外来語をあえて日本語にしてみると，そのままでいいもの，日本語でもいけるものがあっておもしろかった。という内容であった。

話題３．Ｉさんから，アンケートの結果，今の日本語は美しくないと考えている人が多い。という，そんなふうに断定してしまっていいのかと思う発言があった。

《質疑・応答》

Ｉさんへの質問からこの日は始まった。「Ｉさんの発言では日本語そのものが美しくないと聞こえるけど，アンケートに答えた人は本当にそう思っているのか？どうしてそう思ったのか聞かせてください。」と，またもやフロアに対する質問に発展，結局「日本語そのものが悪いということではない，乱れているということです。」というＩさん自身も「そうだったんですか。」という線で落ち着き，「アンケートの設問をもう少し具体的にしたらよかった」というアドバイスが出て決着した。

また，Ｙさんに対しては，「アクセントの違いは方言によっても生まれる。方言を使うことは悪くないでしょ」という意見が出た。Ｙさんは県外出身のため，相手のイントネーションが理解できず，けんかした過去を話したのである。こちらも「時と場合に応じて標準語を使いましょう」ということで決着をみた。

前回のこともあって，どうなることかと心配したが，かえって生徒たちのほうが話題を逸脱しない方向にまとめていったようで，感心した。

③　感想

・教師側から

実はどうなることかと心配していたシンポジウムであったが，終わってみればなかなかに楽しいものであった。これは，まずひとえに生徒は本当は「話したがり」ということ，このことに気付いていながら，あまり多くの話す時間を確保しきれていない自分を反省である。次に，「日本語について考える」ということが，身近な話題でありながら，今まであらためて考えたことのなかったテーマであったということだろう。

これを機会に実際のシンポジウムにも参加してもらいたいものだ。欲を言うなら，シンポジウムの様子を撮ったビデオなどを準備する時間と心のゆとりというか，先見の明が自分にあれば，生徒にとってもわかりやすかったであろう。

・生徒側から

「ひとりに質問が集中したりすると，ちょっとしんどそう。必然性のある質問ならいいけど，ちょっと？というのもあったから。」

→発言者によっては『いじめられてるの？』と思ってしまう瞬間もあったようで，シンポジウムの目的をはっきりさせ，質問の意図を明確にさせることが大切だ。

「初めてだったので，最初はどういうものかと，とまどってしまった。」

「シンポジウムをするには，しっかりした準備と時間がいるといことがわかりました。」

→正直でするどい指摘です。反省します。

「自分とは違った意見が聞けてよかった。」

「それぞれの発言者がしっかり発言したので，質問も意見も沢山出て，良いシンポジウムになったと思う。」

「ついつい激しい討論になったのは，みんながしっかりと意見を持っているということなので，よかったと思う。」

「みんなが真剣に意見を交わすことによって，新たな意見がどんどんでてきて，話がすごい広がっていくのを感じた。」

→この手の意見は，『またやってみたい』で締めくくられているものが多く，満足頂いてよかったと思う反面，いつもの授業でそんなに意見を交し合う場面が少なかったのかな，と複雑な心境。これまた反省点です。

7．所感と課題（評価を含めて）

シンポジウムという，生徒には新しい実践を通して気付いたことの第一は，生徒の「話し合い」好きである。しかしこの場合の「話し合い」は，ある意見や級友に対して「私も一言もの申す」的な色あいが強い。したがって気をつけないと，ある生徒に対する一方的な質問攻めになったり，「君がそう出るなら私はこう」といった根拠のない言い合い合戦になったり，つまり感情的な舌戦の場になる危険があるということである。質問や意見が出るのは，発表者や発言者の発言内容が「興味深い」あるいは「論旨があいまいである」といったことの結果であるということを，生徒たちがお互いに認識していなくてはならない。その点の押さえが，今回は不十分であったように思う。

まず，「シンポジウム」について，その形式のみならず，そこに出されるのは「話題」なのであるから，ひとつの意見を全体でふくらませていこうという目的の確認，これが行き渡っていなかった。また，レポートの段階で根拠となることをしっかりまとめておかないと，説得力に欠け，他の人にわかりにくいということを実感する場（これが評価の場といえるだろう）の設定が十分ではなかった。

「話し合い」の場では，意見を述べること，それを聞くことが，そのまま相互評価の場になっているとも言えるのではないかと思うが，生徒自身に評価をされているという自覚までいかなくとも，他者の意見を自己還元しようという意識がなくては「生徒のための評価の場」になっているとは言えないだろう。その意味で，「話し合い」の場においては，その目的を認識させるとともに，「自分の意見を他者はどう聞いたか」，また「そう受け止められたのはなぜか」を意識して話したり，聞いたりできるような手立てが必要であるとあらためて認識した。

※資料　「レポート」から「発言メモ」へ

(1)　話題；日本語の多様さ

話題 日本語の多様さ	
話題を取り上げた動機や話題に対する意見	・自分のレポートがテーマが「インターネット上の言葉遣いの違い」だから。 ・日本語には色々な使い方があり、それぞれどのような使われ方をしているのか知りたいから。
意見を支える根拠や、具体的な事例	インターネット上と普段の言葉遣いが違うように感じることがある。 →調査の結果、違うと感じている人が多いことがわかった。 ・言葉遣いが変わるのはいいことか悪いことか。 →悪くないと感じる人が多い。

インターネット上と普段の言葉遣いの違い

①話題を取り上げた理由

私はメール、掲示板、チャットなどを使ってインターネットでの"会話"をよくする。月に数回だったり、毎日よく話す人とインターネット上や会話するとき普段と違う印象をうけたりする事がある。その原因を考えてみると、普段との言葉遣いの違いが考えるように思ったので調べてみた。

②調査方法と結果

以下の4つの質問を20人にしてみた。

Q1 インターネット上で言葉遣いの違う人はどのくらいいるか。

A1 多い(60%以上)　18人
　 半分(40%～60%)　1人
　 少ない(30%以下)　1人

Q2 インターネット上と普段とでは違う印象をうけるか

A2 変わる　20人
　 変わらない　0人

Q3 Q1・2に対してそれは良いことだと思うか

A3 良いと思う　14人
　 悪いと思う　4人
　 どちらともいえない　2人

Q4 最後に、自分は変るか変わらないか

A4 変わる　14人
　 変わらない　5人
　 わからない　1人

③結果の考察と感想

アンケートの結果から、インターネット上と普段とでは言葉遣いが違うと感じられている人は多いことがわかる。しかし、そのことを悪いと思う人は少なく逆に良いと思う人が半少以上いた。

それからのことからわかることは、インターネット上では言葉遣いが変わることにより、印象自体が変ってしまう人が大多数だが、それを悪いと考えている人は少ない。良いと考える人の意見には、「普段とはまた違う色々な自分を知ってもらえるので、関係がより良くなるから。」とある。

どんどん普及していくインターネットがもっと人間関係の向上に役立てていけばいいなと思う。

(2)　話題；日本語をどう感じているか

話題 日本語をどう感じているか	
話題を取り上げた動機や話題に対する意見	・動機 ・レポートで、「年齢を表す言葉」について調べていくと、日本語の多様さと同時に昔からの言葉がすたれ、外来語がつけくわわれて変化している日本語を人々はどう思っているのか気になったから。 ・話題に対する意見 ①日本語は簡単になっていると思う (難しくはない) ②日本語は美しくはないと思う ③日本語はこれからも変化し続けると思う
意見を支える根拠や、具体的な事例	①若者言葉の娯楽機能や、難しい日本語が使われなくなっている →日本語は簡単で、わかりやすくおもしろくなっている ②昔からの豊かな日本語が使われなくなり、伝統的な日本語のもつ美しさが使われず、すたれていく →中身のない、あまり美しくない日本語へと変化している ③昔、反感を帯びた流行語が、今では普通の日本語として受け入れられている →現在の流行語もそのうちは社会に受け入れられ、さらなる言葉が誕生し、日本語はこれからも「進化」していく

年齢を表す言葉にはどんなものがあるか

1. 目的

カタカナ語(外来語)がどんどん増えている現代で、伝統的な日本語はどんどん使われなくなっている。僕がこの問題を取り上げたのは、伝統的な日本語の中でも年齢を表す言葉に焦点をあてて、どのようなものがあるか調べ、伝統的な日本語の良さを知りたかったからです。

2. 調査の方法

①大辞調査――「最新国語資料集」を中心として年齢を表す言葉を調べる。

②アンケート――年齢を表す言葉のうち一番有名な「還暦」をめぐって次のような質問をした。

a. 還暦という言葉を聞いたことがありますか。

b. (aで「はい」と答えた人に)還暦の意味を知っていますか。

3. 調査の結果

①年齢を表す言葉(年齢は数え年)

・志学　15歳
　学問を志す年齢
・而立　30歳
　独り立ちをする年齢
・不惑　40歳
　人間として迷いが消えた年齢
・知命　50歳
　天から与えられた使命を悟る年齢
・耳順　60歳
　他人の言葉を素直に聞ける年齢
還暦　61歳
　暦の干支が初めに戻る年齢
・従心　70歳
　行動が道にはずれなくなる年齢
古稀　70歳
　「人生七十古来稀なり」(杜甫の詩より)
・喜寿　77歳
　「喜」の草書体の「㐂」による
・傘寿　80歳
　「傘」の略字「仐」を「八十」と見る
・米寿　88歳
　「米」の字を分解すると「八十八」
・卒寿　90歳
　「卒」の略字「卆」は「九」と「十」になる
・白寿　99歳
　「百」から「一」を取ると「白」

・は孔子の「論語」による。・は日本での言い方

②アンケート(3年2組39人＋先生1人で40人)

a. 還暦という言葉を聞いたことがあるか

聞いたことがある――28人(全体の70%)
聞いたことがない――12人(30%)

b. (aで「はい」と答えた人に)還暦の意味を知っているか

知っている――17人(全体の42.5%)
知らない――11人(27.5%)

4. 結果の考察

大辞調査より、年齢を表す言葉には複数の種類があることがわかりました。まず、孔子の「論語」からきているもの次に日本でできたもの、あとはその他です。種類により言葉の成り立ちかたがいろいろ意味を表すものや漢字のつくりからきているものなどさまざまです。

次にアンケート結果から、年齢を表す言葉は、聞いたことがある人はたくさんいても、意味を正しく言える人は少ないということがわかりました。しかし、一番有名な還暦でさえ知らない人が全体の30%もしめるので、他の言葉でも、聞いたこともないという人がも、と増えると思います。

5. 感想

思っていたよりも年齢を表す言葉はたくさんありすこしおどろきました。この調査をしていて一つ思ったことは年齢を表す言葉というのはおもしろいということです。

しつつの言葉に意味や成り立ちがあり、初めは意味のわからなかった言葉も調べていくうちに「なるほど」と思える意味があります。このような言葉を使いこなせるようになると、言葉の世界が広がり、言葉が豊かになると思います。これは伝統的な言葉すべてにいえることだと思います。外来語もいいけれど、古くからの伝統的な言葉をどんどん使うのも日本語の世界を広げるいい方法だと思いました。

3年

1　「言葉とわたしたち」

学習内容	（1）日本語を考えよう ・日本語について調査したことを報告書にまとめる （2）日本語を巡って話し合おう ・日本語についてのシンポジウムを開く （3）漢字の学習1 ・漢字の形に注目して，類形の異字や同音の異字，画数の多い字などの読み方や意味を理解する。

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	日本語について自分なりの課題を見つけ，報告書にまとめたり，シンポジウムを開いたりする活動に進んで参加しようとしている。 漢字の形に注目し，読み方や意味を進んで調べようとしている。	シンポジウムの中で発言したり，友達の意見を聞いたりして，ものの見方や考え方を広げたり深めたりしている。	調査したことを，構成を工夫して報告書にまとめている。	目的をもって文章を読み，日本語に対する認識を深めている。	漢字の形に注目し，類形の異字や同音の異字，画数の多い漢字などの読み方や意味を理解している。

	教材名	主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
4時間	詩が生まれるとき 日本語は乱れているか	①文章を読んで考えを深め，自分の課題を見つける。 ②見つけた課題について調査し，報告書にまとめる。	・毎日使っている日本語について，書かれていることから考えるきっかけを見つけようとしている。		・インタビュー・アンケート・文献検索など，課題にふさわしい調査方法を選んでいる。 ・調査したことを，課題と目的，調査の方法，調査の結果など項目に分けて整理している。	・日本語を見つめ直すという目的に沿って文章を読み，その中から取り組みたい課題を見つけている。	・「あけがたにには」を読み，助詞の働きやおもしろさに気づいている。 ・「日本語は乱れているか」を読み，話し言葉を記録した文章の特徴に気づいている。
4時間	日本語を巡って話し合おう ーシンポジウムを開くー	①目的に沿って，シンポジウムの計画・準備を進める。 ②シンポジウムを開き，ものの見方や考え	・計画・準備を含め，積極的にシンポジウムに参加し，ものの見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。	・計画や準備について，目的意識をもって話し合っている。 ・大きく動機と意見，根拠と事例の二つに分けて，発言の内容・組み立てを考えている。 ・発言をもとに，必要に応じて言葉を置き換			・説得力のある発言となるよう，言葉の選び方に注意している。 ・発言や質問をする際，シンポジウムという場にふさわしい言葉遣いを心がけている。

		方を広げたり深めたりする。		えたりしながら，わかりやすく話している。 ・友達の発言を注意深く聞き，的確に質問したり，答えを返そうとしたりしている。			
2時間	形に着目して漢字を考える	①漢字の形に注目して，類形の異字や同音の異字，画数の多い字などの読み方や意味を理解する。	・漢字の形に興味をもち，教材文にある課題に進んで取り組もうとしている。				・形が似ている漢字，形が似ていて音も同じ漢字について，相違点と共通点を理解している。 ・漢字を部分に分けることで，読み方や意味の違いを理解したり，複雑な形の漢字を覚えたりしようとしている。
評価方法と評価基準	（評価Ｂ）		（書くこと） ①作文の質や量を評価 ・書かれていることから題材を見つけている。 （話す・聞くこと） ①活動の観察 ・シンポジウムに関心を持って参加している。 （読むこと） ①活動の観察 ・課題に取り組んでいる。	①発言メモの点検 ・発言の内容・組み立てを考えている。 ②活動の観察 ・わかりやすく話そうとしている。	①作文の内容を評価 ・適切な調査方法を選び、結果を項目に分けて、整理している。	①作文の内容を評価 文章の内容から、題材を見つけている。	（話す・聞くこと） ①活動の観察 ・適切な言葉遣いをしている。 （書くこと）） ①単元テスト ・８割以上
	（評価Ａ）		（書くこと） ①作文の質や量を評価 ・質、量ともに抜きん出て充実している。 （話す・聞くこと） ①活動の観察 ・シンポジウムに積極的に関わっている。 （読むこと） ①活動の観察 ・課題に積極的に取り組んでいる。	②活動の観察 ・たいへんわかりやすく話そうと工夫している。	①作文の内容を評価 ・調査方法、整理のし方にたいへん工夫が見られる。		
	（評価Ｃに対する生徒への配慮事項）		（書くこと）） ・再提出				（書くこと）） ①単元テスト ・再テスト

選択Ａ国語「日本文化の伝道師になろう」

端名　秀雄
四十住基子

1．講座のねらい

選択Ａは補充，すなわち基礎・基本の定着に主眼を置いている。今年度は，二年生までの授業で学習した，日本の言語文化を再び取り上げることとした。そして，週一時間全11回（前期・後期それぞれ）という回数，さらに開設日が連続しないという条件のため，少ない単位時間で完結する基本研究をいくつか行い，それぞれの言語文化の理解を図ることとした。さらに，最終的には各自の研究の成果を，外国の人たちに，「わかりやすく」伝えるという場の設定をした。これは厳しい実の場を与えることで，今年度の国語科の研究テーマである「伝え合う力の育成」を狙ったものである。

2．講座の内容

(1)　生徒

三年生対象に前期二クラス，後期二クラス開設し，各クラス10人から20人程度の構成，教師二人でそれぞれ担当した。授業内容は両クラス，前期・後期ほぼ同じである。

(2)　内容

全11回の計画（前期）

第１回（５／13）	基本研究その１「慣用句・ことわざ編」
第２回（５／20）	
第３回（５／27）	基本研究その２「方言・かなざわことば編」
第４回（６／３）	
第５回（６／10）	基本研究その３「俳句・短歌編」
第６回（６／17）	
第７回（６／27）	テーマ別研究＆発表準備
第８回（７／１）	
第９回（７／８）	
第10回（７／15）	発表
第11回（９／２）	まとめ

3．発表会

前期の発表は，2002年７月15日に行い，金沢大学から留学生を招いて行った。当日は，韓国出身者二名，カナダ出身者一名，ブルガリア出身者一名，計四名の方が来てくださった。四名共に，日本の文化や言語に興味を持っていらっしゃるとのことで，日本語はよく理解し，「話す・聞く」には，ほぼ困らない様子であった。各クラスに一時間ずつ参加し，各グループの発表を聞いていただいた。各発表の終わりには留学生からの質問を受け付け，それに答えるという形式で行った。

生徒達は三人から四人のグループに分かれ，それぞれ基本研究に則って，「ことわざ」「俳句」「短歌」「方

言」などについて発表を行った。その際，プリントや掲示物を作成したり，クイズや演技を交えて説明を行った。また，発表の様子はビデオに録画し，お互いのクラスで見合い，批評し合った。

4．評価規準表（別紙）

5．反省

一つ一つの基本研究は，テンポよく，一度習っていることなので，理解も早く，各自の研究も集中して行えた。もともと，生徒が希望して参加した講座なので，興味をもって熱心に取り組んでいた。課題があるとすれば，最後の発表会である。発表の態度や準備はまずまず合格点ではあったが，その取り上げる内容の程度に問題が残った。前期は「外国の方」に向けてのものであったが，難しい内容を扱って上手に伝えられなかったり，自分たちも半知半解の内容で，質問を受けても答えられなかったりという場面も出てしまった。反省の中にもあるが，「自分たちの理解の範疇で，ごく基本的なことを十分に分かるように説明した方がよい」，ということが後期の受講者に向けてのアドバイスとなった。教師側も，反省を生かし，後期は小学生を対象に行えないかと考えている。

資料1　基本研究1「ことわざ・慣用句・故事成語」　生徒レポート

〈動物を使ったことわざ〉

3-4

鳥
・足もとから鳥が立つ　・かもがねぎをしょって来る　・閑古鳥が鳴く
・きじも泣かずば打たれまい　・つるの一声

かっぱ
・かっぱの川流れ

かめ
・かめの甲より年の功

馬
・生き馬の目をぬく　・馬の耳に念仏　・馬が合う

いたち
・いたちの最後っ屁

犬
・犬の遠ぼえ　・飼い犬に手をかまれる
・犬もあるいれば棒にあたる

牛
・牛のあゆみ　・牛耳る

ねこ
・借りてきたねこ　・ねこにかつおぶし　・ねこに小判　・ねこの子一ぴきいない
・ねこの手も借りたい　・ねこの目のようにかわる　・ねこも杓子も　・ねこをかぶる

たぬき
たぬきねいり

きつね
・きつねにつままれる

ライオン
・獅子の子落とし

＊まとめ＊

・昔から人とかかわりのある動物ほどことわざの数が多いと思う。（犬，猫，馬などッ）
・意外と多くの動物がことわざになっている
・動物の行動を人間にたとえた物が多い。

資料２　基本研究２「方言・金沢ことば」配付資料

選択国語「日本文化の伝道師になろう」
基本研究その２　　三年　組　番（　　）

○「方言・金沢ことば編」

「方言って昔のことばじゃないですか。おじいちゃんやおばあちゃんとかがつかうのを聞いたことはあるけど、わたし的にはほとんどつかわないってゆうか……」

▽これって本当？

○ことばは時代とともに変化します。もちろん方言も例外ではありません。そして、新しい方言もどんどん誕生しています。だから方言が昔のことばだという認識は間違っています。みなさんが方言だとは思わずにつかっていることばの中にも、意外に方言が多いのではないでしょうか。自分たちが日頃つかっていることばの中から方言を取り上げて、その性質やつかいかたなどを考えてみましょう。

☆○○先生「オイデマスカ？」は共通語？

☆「ウチラ」って単数？それとも複数？　「ラ」は何？　共通語では？

☆鉛筆の芯の先がとがった状態を表す擬態語は？

☆疲れたと言うときに使う形容詞は？

☆文末詞「ウェー」と「ジー」の違いは？

☆文末詞「ゲン」「テン」「ネン」の違いは？

資料３　生徒発表プリント

金沢ことば

メンバー

〔日常会話の例〕

○語尾に特徴がある。

① 標準 → 今日宿題あったかな？
　方言 → 今日宿題あったっけ？
② 標準 → その車かっこいいですね。
　方言 → その車かっこいいじー。
③ 標準 → 昨日映画見に行ったよ。
　方言 → 昨日映画見に行ったんてー。

○あいさつ

① 標準 → ありがとう
　方言 → あんがとと
② 標準 → こんにちは
　方言 → まいどさん
③ 標準 → いらっしゃいませ
　方言 → おいでなさいませ
④ 標準 → お久しぶりですね
　方言 → ぶがいこって

○あいづち

① 標準 → そうですか
　方言 → そうけ？
② 標準 → いいえ
　方言 → ぶーんも
③ 標準 → そうですね
　方言 → ほうや

〔クイズ〕

①「だら」とはどういう意味でしょう？

②「つんつん」とはえんぴつの状態を表します。
　これを絵にかいてみてください。

3年選択A「日本文化の伝道師になろう」

目標及び学習内容	○日本の言語文化（ことわざ，慣用句・方言・俳句，短歌）を外国人にわかりやすく紹介しよう。

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	○自らのテーマを決め，積極的にさまざまな情報を集めて調査し，意欲的に伝えようとしている。	○発表する内容を工夫して分かり易く伝えることができる。	○調べた内容を分かり易くまとめることができる。	○資料から必要な情報を探したり，韻文の作品から作者の意図をとらえることができる。	○韻文のルールを理解したり，テーマにあった言葉を探したりすることができる。

	単元名	主な学習活動または学習項目	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
2時間	○ことわざ，慣用句	○資料を使って代表的なことわざや慣用句を調べる。	○自らのテーマを決めて，積極的に調べようとしている。				○テーマに合ったことわざ・慣用句を集めることができる。
2時間	○方言（金沢ことば）	○自分たちのよく遣う金沢ことばの性質や用法について考える。	○自らのテーマを決めて，積極的に調べようとしている。				○テーマに合った方言を集めることができる。
2時間	○俳句・短歌	○資料集を使って俳句・短歌の歴史を知り，代表的な俳句や短歌を調べる。	○自らのテーマを決めて，積極的に調べようとしている。			○作者の意図や思いをとらえ，言葉のリズムを考えて読んでいる。	○短歌や俳句の特徴を理解している。
3時間	○発表準備	○ことわざ，慣用句・金沢ことば，短歌・俳句から一つ選び，同じものを選んだグループで，発表内容と方法を考え，準備する。	○テーマを決めて，広い範囲から情報を集めようとしている。		○テーマに基づいて，基本的な内容を分かり易くまとめることができる。	○参考資料から，必要な情報や資料を探して活用することができる。	
2時間	○発表会	○グループごとに，発表方法を工夫して発表する。	○積極的に，異なる文化圏の人に伝えようとしている。	○異なる文化圏の人に，発表内容を分かり易く伝えることができる。			
基準	評価B		・活動の観察	・活動の観察	・発表用資料から評価	・発表用資料や発表内容から評価	・観察 ・発表用資料の質
	評価A		・活動の観察	・活動の観察	・発表用資料から評価	・発表用資料や発表内容から評価	・観察 ・発表用資料の質
	評価Cに対する生徒への配慮事項		・活動へのアドバイス	・活動の観察	・発表用資料作りへのアドバイス		